【授業科目】人体のしくみと働きⅠ（解剖学）　Anatomy

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
山口 央輝	１年次 前　期	必　修	２	３０	講　義	あり	巻末 掲載	可

授業概要 （内容と進め方）及び 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ 方法	授業概要／ 1. 人体を構成する細胞・組織・器官のしくみを系統的に学ぶ。 2. 人体の機能を構成する細胞や組織の生命反応のしくみを流通機構と細胞相互の反応の観点から学ぶ。 3. 人体の構造と機能のしくみを機能形態別（呼吸・循環機能、栄養・代謝機能、腎・排泄機能、内分泌機能、神経・運動機能、免疫・防衛機能、生殖機能、血液機能）に解説する。 課題に対するフィードバック方法／授業に関する課題は授業時間内に対応する。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー②「人間の健康を環境との関係において捉え、地域社会の生活者の視点から看護の役割を考え、実践することができる」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達すべき目標）	①人体を構成する様々な器官系の構造を理解し記述することができる。 ②身体構造が内部の調和を保ち、外界に適応していることに興味と関心を持つ。 ③機能構造的な観察や健康事象の探索に積極的に活用できる。
時間外学習に必要な 内容・時間	第１回～15 回事前学習：指定の教科書を事前に読んでおく（各６０分）。 第１回～15回事後学習：学習した内容を整理しまとめる。分からなかった内容は次回講義時に質問し理解するようにする。人体を構成する様々な細胞・組織・器官のしくみと働きを覚える（各６０分）。人体の構造と機能は、看護職にとって最重要な基礎となるものである ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	01 回 イントロダクション 序章　全身像 解剖生理学の基本的事項 02 回 第 1 章　細胞と組織 身体を構成するしくみ 03 回 第 2 章-1　骨格 身体を支える・動かすしくみ 04 回 第 2 章-2 筋系 身体を支える・動かすしくみ 05 回 第 3 章　血液・循環器系 物質を運搬するしくみ 06 回 第 4 章 呼吸器系 酸素を取り入れて，二酸化炭素を排出するしくみ 07 回 第 5-6 章 体液 泌尿器系 体内の水分を調節し尿を作るしくみ 08 回 第 7 章 消化器系 食物を摂取して消化・吸収し排泄するしくみ 09 回 第 8 章-1　神経系 情報を収集して判断し，伝達するしくみ（p373 まで） 10 回 第 8 章-2　神経系 情報を収集して判断し，伝達するしくみ（p399 まで） 11 回 第 9 章 感覚器系 外部から情報を取り入れるしくみ 12 回 第 10 章 皮膚と膜・免疫系／体温調節 生体を守るしくみ 13 回 第 11 章 内分泌系 内部の環境を整えるしくみ 14 回 第 12 章 生殖器系 子孫を残すしくみ 15 回 まとめ 全て 山口
評価方法 評価基準	試験（90%）、受講態度（10%）で総合的に評価する。
教科書	ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能(1): 解剖生理学 第 5 版［メディカ出版］ 看護師・看護学生のためのレビューブック 2024-25 第 26 版［メディックメディア］
参考書等	講義の中で適宜紹介する
学生への 助言等	標準的な体の機能と仕組みに関する知識は、病気や疾病の成り立ちや健康障害に対する対象者の反応を探索していく上で重要な知識です。生命を維持機能させる身体の仕組みを関連づけながら学んでください。 講義中の食事・携帯電話による通話・教室の出入りは原則禁止とする。ただし、PC, タブレット等の電子デバイスは積極的に使用すること。また、講義中は私語をつつしむこと。